

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年12月22日

【評価実施概要】

事業所番号	0110413994		
法人名	医療法人 福和会		
事業所名	グループホーム 青空		
所在地	札幌市手稲区曙11条2丁目3-13 (電話) 011-683-7523		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年12月18日	評価確定日	平成22年2月15日

【情報提供票より】 (平成21年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	37,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費10,000 円 暖房費(11~3月) 8,000円
敷金	有 ( 円) ・ <b>無</b>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) <b>無</b>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		900 円

(4) 利用者の概要 ( 11月 10日現在 )

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 92 歳	最低	84 歳	最高	100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人福和会札幌立花病院、佐藤歯科
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム青空」は、医療機関を中心として複数の介護事業を運営する法人の一施設で、開設が平成12年とグループホームの草分け的存在です。長年のホーム運営から培った介護に関するノウハウが職員の利用者へのケアサービスにも反映され、運営法人の病院も隣接していることから家族に安心していただけるホームです。利用者は、理事長(病院長)の優しい心遣いや職員の温かく親切な対応と清潔で明るく親しみのある雰囲気施設の施設、ゆとりのある居室など、居心地良い居住環境のもとでゆったりと暮らしています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価で取り組みを期待された同業者との交流は、管理者が職員と共に他グループホームを見学しており、今後も相互見学など交流を深める予定です。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	自己評価は、前回作成した評価を職員全員で見直し、管理者がまとめています。最終的に出来上がった自己評価表は、再度職員全員が内容を確認し、課題事項は会議で協議しながら、ケアサービスに反映させるよう努めています。 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、町内会や包括支援センターと運営法人関係者の多数の参加者により定期的開催しています。会議では運営状況報告と質疑、運営上の意見交換がされ、課題についてホームの会議や運営法人で検討して、ケアサービスに反映させるようにしています。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 苦情処理体制は整備されており、家族のホーム来訪時にも意見や要望等を把握するように努めています。苦情等があった場合は、申し送りや会議で報告し、速やかに対応策を協議しながら運営に反映させるようにしています。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 管理者は、総会など町内会の会合へ積極的に出席し、地域のお祭りや清掃にも参加しています。利用者は近隣小学校の運動会や学習発表会へ見学に行ったり、小学校の児童やボランティアがホームへ歌や踊りを披露に訪れ、利用者を楽しませるなど日常生活において地域との交流が進んでいます。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの運営理念に、地域との関わりを大事にする旨の文言を追加しています。この理念のもと、ホームは地域との交流を図りながら、利用者が地域の一員としてその人らしく暮らせるよう努めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホームの玄関などに掲示すると共に職員の名札裏にも記載されています。職員はこの理念を意識しながら、利用者へのケアサービスに反映させています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は、町内会の総会等の会合へ積極的に出席し、夏祭りや清掃など地域の行事へも参加しています。また、利用者は近隣小学校の運動会や学習発表会へ見学に出かけたり、小学校の児童が訪れて歌や踊りを披露するなど、地域との交流が盛んです。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成は、前年度の評価を職員全員で再検討して意見を聞きながら見直し、完成した評価を再度職員に目を通してもらうようにしています。評価結果の課題はミーティング等で話し合い、改善に努めています。		

札幌市手稲区 グループホーム 青空

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、包括支援センター職員を含めたメンバーで2ヵ月毎、定期的に開催しています。会議ではホーム運営状況報告や意見交換の他に講師を呼んで介護関連テーマの話をしていただくなど、開催内容を工夫しています。	○	会議は、毎回参加者10名以上と多数ですが、大部分は運営法人関係者や家族で、外部者の出席は1～2名と少ない状況です。今後は、民生委員、教育関係者、町内会婦人部など、外部メンバーの増員を期待します。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の窓口へは、運営法人の管理部門が担当していますが、管理者は区や市の管理者会議へ積極的に参加し、行政関係者との交流を図っています。また、市からの各種資料もケアサービスに活かすようにしています。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時に、職員の方から利用者の暮らしぶりを伝えていますが、来訪が少ない家族へは電話で報告しています。さらに、ホーム便りに加えて写真や利用者一人ひとりの便りも同封して郵送しています。	○	利用者一人ひとりのお便りは、管理者が担当していますが、利用者を良く理解し、ケアサービスの意識を高めるために、職員全員が分担する取り組みを期待します。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームでは、苦情処理体制を整備していますが、家族来訪時に職員が要望等を把握するようにしています。要望等があった際には申し送りやミーティングで検討して改善するようにしています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	近年は、職員の異動や離職者も殆どありませんが、同法人内の異動の場合は、各ホームの建物が廊下でつながっているため、異動した職員が訪れて利用者の不安を無くすようにするなどの配慮をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営法人全体の内部研修を定期的開催しています。グループホーム協議会主催など外部研修へも職員が交替で参加し、研修結果は内部で報告しながら、職員全員の共有とるようにしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議を通じて同業者との交流やネットワーク作りをしています。さらに、今年度は他のグループホームを見学しており、今後も相互見学など交流を進める予定です。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定者には、ホームに馴染めるよう事前に見学をしていただき、入居当初は慎重に見守りながらサービスを実施しています。従来は、運営法人の病院やケアハウスからの移行が多いため、最初からホームの暮らしに馴染んでいます。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は、職員と共にホーム内の片付けや整理、菜園の収穫、食事準備や後片付けなど、一人ひとりが出来ることを行ない、支え合いながら過ごす関係が築かれています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者は、自分の思いや意向を十分に表現できない場合が多いため、日常行動を注意深く見守り、表情等から把握するようにしています。また、利用者から話しかけてきた時は、急がず対話を行なうように努めています。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者の生活歴や家族からの要望、医療機関からの情報を十分に検討し、アセスメントによって作成しています。作成した介護計画はスタッフ会議で協議しながら、職員全員の共有としています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、入居時の暫定計画後、利用者の状況を見ながら医療機関とも相談して、3ヵ月から6ヵ月の期間で実施しています。利用者の身体状況に変化のある際には計画を随時見直し、家族にも説明しています。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の専門医受診には、家族が付き添えない場合に職員が対応しています。また、定期的な訪問美容、ボランティアの慰問受け入れ、車両によるドライブや買物など多様な支援をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームと廊下でつながっている運営法人の医療機関は、利用者の健康に対して常時相談できる体制にあり、24時間受診も可能です。耳鼻咽喉科、眼科など専門医への通院も支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームは重度化や終末期に向けた指針を作成しており、家族へも説明しています。ホームと病院が直結しているため、利用者の重度化等の状態時には、病院と連携を図りながら迅速に対応しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者への言葉かけやケアサービスの際に、誇りやプライバシーを損なわないよう十分に配慮しています。利用者の介護計画などの資料も整理され、適切に管理されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日々における基本的スケジュールはありますが、利用者一人ひとりのペースに合わせて希望も把握しながら、ゆったりと過ごせるよう支援しています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や後片付けは、利用者と職員が一緒に取り組んでいます。職員は、同じ食卓で同じ食事を和やかに取っています。食事に時間がかかる利用者には、職員がさりげなく介助をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回を原則としていますが、利用者の希望により入浴日や時間の変更も可能です。入浴は一人ずつゆったりと寛いで楽しめるよう配慮していますが、暖かい時期には希望に応じてシャワー浴もあります。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事準備や洗濯物たたみなど、利用者の出来ることを役割としています。また、カラオケ、トランプなどのゲームや病院内の多目的ホールで開催される行事、バスによるドライブで海やショッピングセンターを訪れるなど、様々な楽しみごとがあります。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子利用者が多いですが、無理をせず近所の散歩、広い建物内廊下の往来、中庭での寛ぎなど、日常的に支援しています。さらに、バスによるドライブの行事として、遠くへ出かけるのを楽しみにしています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はホーム玄関に施錠をせず、ユニット入口も錠だけです。ユニット入口は、ホーム内部や入口外側にあるケアハウス受付から見通しが良いため、利用者の出入りは常に見守り可能です。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の協力をいただいて、同じ建物内にあるケアハウスと共同で夜間想定訓練を含めて避難訓練を実施しています。また、運営推進会議や町内会会合を通して、災害時における地域の協力を要請しています。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスを考慮しながら献立を作成しており、毎日の食事カロリーも算出しています。利用者一人ひとりの食事量や水分摂取量も記録して支援しています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、総じて明るく清潔感があり、中庭を見渡せる食堂兼居間には季節の飾りや手作り作品などが飾られ、親しみのある空間となっています。設備類も4ヵ所のトイレ、使いやすい洗面所、廊下端には寛ぎの場所として多数の椅子があり、利用者が安心して過ごせるホームです。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はゆったりとした広さがあり、壁面側には調度品等を置けるスペースもあるため、室内を整理しやすくなっています。利用者は、好みの物を持ち込んで室内を飾り、居心地よく過ごしています。		

※  は、重点項目。